

つくばサイエンス・インフォメーションセンター

2/15
(土)

原発の町を 追われて

15:00 ~
19:00



避難民・双葉町の記録 Part 1&2



上映会・福島報告交流会

双葉町民の避難所となった埼玉県加須市旧騎西高校での生活と、町民の声を集めたドキュメンタリー『原発の町を追われて』。そして避難生活3年目となる人々の暮らしと、町長交代・町役場移転…と、変化し翻弄され続ける双葉町の現状を捉えた続編を、前作と合わせて上映します。上映後、福島の皆様の生の声を聞かせていただく交流会を開催します。是非ご参加ください。



「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」
56分 2012年 日本
「続・原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」
26分 2013年 日本
撮影 堀切さとみ 西中誠一郎 井口みどり
編集・ナレーション 堀切さとみ
制作協力 松原明



チケット 500円
高校生以下と
福島避難者は無料



福島第一原発の立地する双葉町。3・11原発事故直後、井戸川克隆町長(当時)は町民の安全を求めて、遠い地での避難を選ぶ。町は役場機能を埼玉県加須市に移し、廃校の旧騎西高校で最多時1400人が避難生活を送り、満3年を目前にした2013年12月で避難所は閉鎖された。福島県と国は、2012年末、全国自治体に新たな県外避難援助を打ち切るよう通達した。

制作者 堀切さとみ プロフィール
さいたま市在住。49歳。
2008年に市民メディア講座「mediR」で、映画制作を学ぶ。上関原発に反対する祝島の住民を記録した「神の舞う島」を制作。原発避難民の置かれた現状を記録した活動により、2013年やよりジャーナリスト賞特別枠「期待賞」受賞。

主催 脱原発ネットワーク茨城 <http://nonukes-ibaraki.seesaa.net>
共催 放射能から子どもを守ろう関東ネット / 常総生協 / 花小路つくば店
福島応援プロジェクト茨城 / 原発いらない牛久の会 / 環境学習同好会
チケット 友朋堂書店・花小路つくば店・カフェ・ベルガ・岩瀬文具店



CO・OP 共済 地域ささえあい助成を受けています

会場 つくばサイエンス・インフォメーションセンター
つくば市吾妻 1-10-1 ノバホール入口の隣

— 双葉町は永遠に — 井戸川町長退任の挨拶

私たちは前例の無い避難という過酷な状況に置かれています。いつまでも海原を漂流するわけにはいきません。早く上陸地を国が準備して、再興できる日を求めてきました。しかし、時間が足りませんでした。放射能のないところで平和な、皆が集える町ができることを祈り町民の安寧を願って、私は本日、双葉町長の辞職申し出をしました。

私の今までの取り組みから次のことを申し上げたいと存じます。

1. 事故に負けない

原発事故で負けるということは、今のまま、何もしないことである。双葉町民には負けてほしくない。勝ってそれぞれ生き抜いてもらいたい。今はそれぞれの地に離れて住もうとも、廃炉が完了して故郷から放射能の危険が去り、自然と共生出来るようになったら再結集しよう。我が子どもたちへ、この悔しさを忘れることなく、何としても生き抜いて何倍も幸せな双葉町を再建していただきたい。そのためにも負けないで学び、求められる人になれ。世界の雄になってもらいたい。

(1) 負けないということは以下のことを忘れないこと

- ①避難してくださいと国から頼まれたこと。
- ②東電と国は事故を絶対起こさないと言っていたこと。
- ③町と県と東電には安全協定があること。
- ④事故は我々が起こしたものではないこと。
- ⑤正式な謝罪と見舞いがいないこと。(形のあるものではないこと)
- ⑥自分の権利は自分以外に行使できないこと。
- ⑦被ばくさせられたこと。
- ⑧放射能の片付けをさせられること。
- ⑨20msv/yで町へ帰ること。(一般公衆の限度は1msv/y以下)

(3) 町民の力を結集すること

- ①役割分担をすること。
・汚染調査・除染問題・賠償問題・住居問題・職場問題
・健康問題・墓地問題・学校問題・中間貯蔵施設問題
などの調査研究する組織をつくり町民の不利益を解消すること。

- ②事故調査委員会をつくること

事故の報告書には避難を強制された住民の実態が語られていない。外部に任せていたらいい加減に処理されてしまうので、委員会を町独自に構成して正しい記録を残さなければならない。

2. 主張する権利を行使する

- ①見守り隊の組織
 - ②法律家の組織
 - ③文書学事の組織
 - ④ボランティア活動組織
 - ⑤被ばく被害者団体の組織・・・
- などを組織して国民の主権と被害者の復権を勝ち取らなければならない。

(2) 勝つためには何をしなければならないか

- ①事故の原因者を確定すること。
- ②我々の受けた損害のメニュー作成すること。
- ③損害の積算をすること。
- ④回復の請求をすること。
- ⑤回復の限界と代替を請求すること(仮の町、借りの町)
- ⑥立証責任の不存在を共有すること。
- ⑦気づくこと。
- ⑧水俣の住民の苦難を学ぶこと。
- ⑨広島・長崎の住民の方に聞くこと。
- ⑩避難先の皆さんの恩を忘れないこと。



平成 25 年 1 月 23 日 双葉町長 井戸川 克隆

上記の文章は、前双葉町長井戸川さんが退任させられた時に書かれたもので、双葉町のホームページに掲載されていたものです。1年経ちましたが、内容は少しも古くなっていませんし、双葉町の人々の状況も変わらず、一向に良くなっていませんので、是非読んでください。今、井戸川さんは、全国の原発を止めるために精力的に活動し、「子供たちへの健康調査を求めよう」という100万人署名のために、日夜立ち回りを続けています。

主催 脱原発ネットワーク茨城 つくば市柴崎 955-5 花小路内ともいき舎 TEL 029-869-9108 小張 090-9108-0464

暴く！ 東電の実態

おしどりマコ・ケントークイベント

2014年 3月22日(土) 12:30開場
13:00開演

土浦市民会館小ホール 土浦市東真鍋町2-6029-822-8891

おしどりマコ氏は、日本で1番多く東電の記者会見に出席し、鋭く東電を追求してきた。DAYS JAPAN・マガジン9の連載でレポートを続け、マイクロメディア賞受賞。ケン氏はパートナーとしてマコ氏を公私に亘り支えている。

おしどりマコ